

# 中部産業遺産研究会 会報 第51号

*Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage*

---

## 目次

. 第21回 総会の開催について .....	1
. 第122回 定例研究会の開催について .....	1
. シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第31回の開催報告 .....	2
. 第122回 公開定例研究会の報告 .....	3
. 第9回「2013年 パネル展」の開催と勉強会について .....	5
. 2013年度「ものづくり文化再発見！ウォーキング」の開催予定について .....	5
. お知らせ .....	5

### . 第21回 総会の開催について

日時：2013年5月26日(日)、午後1時より

場所：名古屋工業大学 19号館 1階会議室（一昨年と同じ会場で、柱の多い部屋です）

内容：会長挨拶

議長選出

- 1 . 2012年度(平成24年度)事業報告
- 2 . 2012年度(平成24年度)会計報告  
研究会会計  
書籍会計
- 3 . 2012年度(平成24年度)監査報告  
研究会会計  
書籍会計
- 4 . 2012年度～2013年度役員と組織(案)
- 5 . 2013年度(平成25年度)事業計画(案)
- 6 . 2013年度(平成25年度)予算(案)
- 7 . その他

記念講演：「尾西織物について」(仮題) 鈴木貴詞

### . 第122回 定例研究会の開催について

日時：2013年5月26日(日)、上記の第21回総会に引き続いて行う

場所：名古屋工業大学 19号館 1階会議室（総会会場と同じ）

- 1 . 研究報告、調査報告  
報告「テルファー 名古屋港・清水港・神戸港」永田 宏・井土清司  
報告「東海地方の定時制・部(夜間)工業学校の歴史など」水野信太郎
- 2 . その他の諸報告、保存問題など
- 3 . 研究誌、会報(研究会ニュースレター)
- 4 . シンポジウム
- 5 . その他

## ・ シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第 31 回の開催報告

天野武弘

場所：名城大学名駅サテライト・多目的室、名古屋駅前桜通ビル 13 階

開催日時：2013/03/24（日） 13:00～16:15

今回で 31 回目となるシンポジウム「日本の技術史をみる眼」が 2013 年 3 月 24 日に、名古屋駅前の名城大学名駅サテライトを会場に開催された。本シンポは、過去 10 年余り行われてきた産業遺産を主たるテーマにした内容から、シンポタイトルである「技術史を学ぶことと今後の技術革新とは」にもあるように、日本の技術史をテーマとする内容が取り上げられた。

基調講演は、元新日本製鐵株式会社の研究所勤務等を経て、日本鉄鋼協会評議員や内閣官房「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」委員など多彩な活動をされている松尾宗次氏に「製鉄技術史を次世代に継承するために - 世界遺産登録に関わって - 」をテーマに講演いただいた。講演では、「日本の近代化を支えた鉄鋼技術」の観点から、とくに日本の産業近代化に製鉄事業の果たした役割の大きかったことを、そこで活躍した人物に焦点を合わせて、豊富な資料をもとに作成されたパワーポイントを交えて語られた。

印象的だったのは、製鉄技術の創始では軍事が目的であったと唱える人たちがいるが、製鉄は平和事業が発展してこそ偉大なる力を発揮するものであるとして、「平和事業が開けて始めて、優大な鉄の事業が興る」と述べた官営製鉄所（後の八幡製鉄所）の初代製鋼部長であった今泉嘉一郎の言葉を取り上げて紹介された。すぐれて大きい意をなす「優大」は平和への願いのこもった名言であると強く語られた。

また、ドイツの製鉄史家ルードリッヒ・ベックの大著を邦訳した中沢護人の『技術史・文化史的にみた「鉄の歴史」』（全 17 巻）の歴史書を継承し、そうした平和事業であった 20 世紀の製鉄事業、製鉄技術史を日本で継承、実現するものとして、「九州・山口近代化産業遺産群 - 非西欧化における近代化の先駆け」の世界遺産登録が、製鉄業の産業遺産を次世代に継承するためにも重要であると述べられた。

そのあと、松尾氏を交えパネルディスカッションが行われた。パネリストには中部大学国際関係学部準教授でスミソニアン協会アーカイブス研究員でもある財部香枝氏、中部産業遺産研究会の天野武弘、橋本英樹、山田貢の各氏、コーディネーターに中部産業遺産研究会の今シンポ実行委員長の八田健一郎氏によって進められた。

財部氏は、「科学博物館における技術革新研究およびその成果の活用について スミソニアン協会の事例から」と題して、1995 年にレメルソン財団の寄付によりアメリカのスミソニアン協会、国立アメリカ歴史博物館内に創設された「レメルソン発明および革新研究センター」の活動を主に報告された。その使命は、発明および革新の創造過程の公衆理解を増進させることに責任を負っているとし、発明家の成功、失敗などを語ることや、大規模なギャラリー展や巡回展、歴史資料のデータベース化、発明の記録、ゲーム感覚など面白い活動を通して発明の歴史や過程を学ぶなど、多彩



松尾宗次氏とパネリスト

撮影：実行委員



パネルディスカッション

撮影：実行委員

な活動を通して、とくに若者に発明の創造性を助長させることに置いている、と語られた。一方わが国の状況を見るとこうした活動を可能とする科学博物館の割合は極めて低く、アメリカの例は見習うべき実践例であると紹介された。

次に、天野は「技術史教育と産業遺産」と題して、今シンポのきっかけをつくった奥村正二の技術史観、戦後の日本技術史研究の概要、そして自身の産業遺産調査を含んだ技術史教育遍歴を述べ、技術史教育を誰もが学ぶ教養に位置づけるべきと述べた。

橋本氏は「技術史をみる眼」をどのように活かすかと題して、技術者は技術史から学ぶ姿勢が必要であるとして、氏が担当している大学での技術史講義の一端を紹介され、大学工学部での技術史教育の広がりが重要と述べられた。また新たなイノベーションを作り出すためにも、社会に出ても技術者倫理を含め継続的に技術史から学ぶことが大切と結ばれた。

最後に山田氏は「技術史について考える」と題して、人類の歴史は技術史を軸に研究されるべきとの考えを述べられたあと、小学校での図画工作などの教材を手に取りながら、業者が販売するセット教材に頼っている現状を紹介された。セット教材への懸念とともに、素材を加工しその性質や特性を体感、体験することこそが後の技術開発のプラス要因になると熱弁された。

今シンポは、中部産業遺産研究会の例会と同日開催となり、後半に研究会例会が予定されていたこともあり、パネルディスカッションの時間が十分にとれず、テーマとしていた今後の技術革新のところまでは踏み込むことはできなかった。しかし、技術史を学ぶことと技術史教育の重要性については一定の理解が深められ、次ぎにつながる議論になったのではないかと感じている。

シンポ参加者は42名。恒例の夕刻からの懇親会も盛会であった。

なお、本シンポの講演報告資料集（A4判、90頁）は完売しました。



会場からの質問  
撮影：実行委員

## 第121回 定例研究会の報告

司会（朝井佐智子）・記録（永田 宏）参加：38名  
場所：名城大学名駅サテライト・多目的室（名古屋駅前桜通ビル13階）  
開催日時：2013/03/24（日）16:15～17:00

### 新会員紹介、挨拶

- ・中野義之会員、技術士（電気・電子部門）、機械遺産や電気遺産の技術史に関心がある。
- ・徳田峰大会員、大同大学工学部三年生。歴史的なものであれば何でも。

### 1. 研究報告、調査報告

[121-11-01] パネル展の報告「クロッシングレール製造の今昔」中住健二郎

資料（A4、2ページ）とパワーポイントにより説明があった。本年1月末から2月初めに名古屋市都市センターで開催されたパネル展に展示されたものを使用する。

### 2. その他の諸報告、保存問題など

ありません

### 3. 研究誌、会報（研究会ニュースレター）

[119-31-01] 「研究誌『産業遺産研究第20号』について」浅野伸一

編集計画管理表（A4、1ページ）により進捗状況の説明があった。今回は150ページほどになる見こみ。

[ 119-31-02 ] 会報ニュースレター 電子メール版の原稿募集  
ありません

#### 4 . シンポジウム

[ 121-41-01 ] 「日本の技術史をみる眼」第 31 回で「技術史を学ぶことと今後の技術革新とは」を開催した。今回の反省点や次回のテーマ等については今後検討する。

#### 5 . 見学会、その他の催し物

[ 121-51-01 ] 2012 年度パネル展「名古屋のまちづくりを支えた鉄道網」大橋公雄

2013/01/22(火)～02/03(日)に名古屋都市センター11 階のまちづくり広場・企画展示コーナーで開催した。来館者は2,103 名であった。この期間の2013/01/27(日)に名古屋都市センター11 階の大研修室で、JR 東海相談役須田寛氏の特別講演があった。参加者は85 名であった。

[ 121-51-02 ] 2013 年 パネル展「近代名古屋と海外との関わり

- 戦前の国際都市名古屋 - 」(仮称)大橋公雄

本年度のパネル展は2013/11/19(火)～12/01(日)名古屋都市センター11 階まちづくり広場・企画展示コーナーで開催予定です。昨年度と同じ要領で開催する予定であるので、参加者を募っています。

[ 121-51-03 ] 「定例研究会で見方調べ方や調査研究報告予定及び見学希望の用紙記入のお願い」

大橋公雄

定例研究会での「産業遺産の見方・調べ方」や各自の調査研究報告の予定および見学先希望がある会員は用紙に記入して提出してください。

[ 121-51-04 ] 「上前津の名古屋事務所について」石田正治

名古屋事務所にあった当研究会の書籍などの移動や処分は、今年3月20日には完了した。

#### 6 . 文献紹介、資料紹介 ( ) 内は紹介者

##### 【その他の資料】

[ 121-63-01 ] 九州産業考古学会 会報第 18 号」九州産業考古学会 (事務局)

[ 121-63-02 ] 「ニュースレター vol.94」名古屋都市センター (事務局)

[ 121-63-03 ] 「G I H 会報 No.89」岐阜産業遺産調査研究会 (事務局)

[ 121-63-04 ] 「G I H 会報 No.90」岐阜産業遺産調査研究会 (事務局)

#### 7 . 出版広報事業

ありません

#### 8 . 委員会、役員会、研究分科会

ありません

#### 9 . 総務・事務局関係

[ 121-91-01 ] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他

・第 21 回総会・第 122 回例会 2013/05/26(日) 13:00～ 名工大 19 号館 1 階会議室

・第 123 回例会 2013/08/04(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト

当初 07 月 28 日を予定しましたが会場の予約ができないために 08 月 04 日に変更します。

・第 124 回例会見学会 2013/09/29(日) 13:00～ 行先未定

・第 9 回パネル展 2013/11/19(火)～12/1(日) 名古屋都市センター

・パネル展講演会、第 125 回公開例会 2013/11/24(日) 13:00～ 名古屋都市センター

・第 126 回例会 2014/01/26(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト・予定

・第 127 回例会 2014/03/23(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト・予定

・第 22 回総会・第 128 回例会 2014/05/25(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト・予定

会場は名古屋都市センターを除き予定です。他は名城大学名駅サテライトの予定ですが、大同大学や豊田くらし発見館や産業技術記念館などに変更する場合があります。

[ 121-91-02 ] 会員異動 ( ) 内は入会日・退会日

・入会：中野義之(2013/03/20)、松井三希子(2013/04/05)

・退会：早乙女裕子(2013/03/31)、瀬口英司(2013/03/31)、鈴木健二(2013/03/31)

矢代幸雄(2013/03/31)、伊藤仁詞(2013/03/31)

その他

1、永井唐九郎会員が3月22日の電気記念日祝賀会に於いて、日本電気協会中部支部の特別功績賞の表彰を受けました。受賞のテーマは「ガスタービン燃料フレキシブル配管リークチェック伴う閉止板取り付け作業の効率化」です。

2、朝井佐智子会員が愛知淑徳大学の博士課程を修了し「日清戦争後の東邦協会」のテーマの論文により、学術博士号を授与されました。

## ・第9回「2013年 パネル展」の開催と勉強会について

「2013年度 パネル展」

テーマ：「近代名古屋と海外との関わり - 戦前の国際都市名古屋 - 」(仮称)

企画の狙い：戦前、海外とさまざまな形で関わりながら発展した名古屋地区を紹介する。特に、アジアとの関わり、産業への技術移転などについて特長などを掲載する。これまで取り上げられたことはない新しいテーマであり、事実の発掘が出来れば、市民からも関心を持って頂けるだろう。

開催日：2013/11/19(火)～12/01(日)

場 所：名古屋都市センター11階 まちづくり広場・企画展示コーナー

「2013年度 パネル展」講演会・公開研究会

開催日：2013/11/24(日) 13:00～17:00

場 所：名古屋都市センター11階 大研修室

「2013年度 パネル展」勉強会

開催日：第3回・2013/06/09(日)、第4回・2013/07/28(日)、第5回・2013/10/06(日)

時 間：14:00～16:30

場 所：名古屋都市センター13階

勉強会は、関心のある方なら誰でも参加出来ますので、ご出席ください。資料がある方は15部用意してください。この勉強会に出席したい方やご意見などは、担当の大橋公雄幹事または事務局の野口英一朗までお知らせください。

## ・2013年度「ものづくり文化再発見！ウォーキング」の開催予定について

今年度は、下記のように予定されています。今後、詳細が決まって来ますので、例会レジメやメール版でお知らせします。そして、当日のご参加や、産業遺産についての説明のご協力をお願いします。

春コース：四観音道をたどってビール工場へ

実 施 日：平成25年6月29日(土)

コースの概略：丸山神明社      古川美術館      古川為三郎邸      揚輝荘  
                 東山給水塔      名古屋ドーム      誓願寺      アサヒビール名古屋工場

秋に開催予定。 詳細は未定ですが、2度開催される予定です。

## ・お知らせ

事務局より、住所・所属等が変更になった会員へのお願い

年度が替わるなどで職場や住所、電子メールアドレスが変更になった会員は、次の当会事務局までご連絡ください。

連絡は、次の4方法があります。 [h.noguchi@uotushaji.co.jp](mailto:h.noguchi@uotushaji.co.jp)、電子メール版ニュースレターをそのまま返信(天野副会長と橋本広報幹事にも同時に送られます) 自宅 FAX 052-453-5838、手紙や葉書。

#### 会計幹事より、年会費納入について

2013年度の年会費の納入をお待ちしています。例会時に現金支払いも出来ますが、担当者が欠席する場合もありますので、手数料が発生しますが下記の郵便振替や銀行口座をご利用ください。

個人の年会費は4,000円です。

[郵便振替] 口座番号: 00840-1-174258 口座名: 中部産業遺産研究会

[銀行口座] 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店 普通預金 口座番号: 1531266

口座名: 中部産業遺産研究会 会計 市野清志

また、2012年度の未納の方も数名おられ、2年間未納の場合は退会となります。

問い合わせは、市野会計幹事(ichino82@tcp-ip.or.jp)または当会事務局までお願いします。

#### 研究誌の編集より、『産業遺産研究』第21号について

論文・調査報告や研究ノートなど原稿を募集しています。原稿の締め切りは2014年3月末です。投稿予定の連絡は、浅野伸一幹事(s-asano417@rapid.ocn.ne.jp)または当会事務局までお願いします。

#### シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第32回の実行委員会の開催

シンポジウム「日本の技術史を見る眼」の実行委員会を、2013/05/26(日)の10:00~12:00に行う予定です。会員であれば参加できますので、10時前に名古屋工業大学正門に集合し、一緒に会場に向かいます。会場は総会・例会を行う名工大19号館1階会議室です。この実行委員会に出席したい方やご意見などは、担当の山田貢シンポジウム事務局または事務局の野口英一朗までお知らせください。

#### 会報の編集より

編集委員の募集および、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿ください。投稿は郵送または電子メールでお送りください。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けてください。原稿はテキスト形式で作成していただくこと編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式でお願いします。原稿送付先: 野口英一朗 [noguchi.d5@dion.ne.jp](mailto:noguchi.d5@dion.ne.jp) (アドレスにご注意ください。@の前にドット。)

電子メールをお持ちの会員で、橋本幹事から電子メールニュースが配信されていない会員は、メールにて、橋本幹事([hidekih@wine.plala.or.jp](mailto:hidekih@wine.plala.or.jp))までご連絡ください。すでに着信確認メールを出されている方は、再度送信いただく必要はありません。

---

#### 中部産業遺産研究会会報 第51号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.51 2013-5

発行: 中部産業遺産研究会

発行人: 石田正治

発行日: 2013年5月1日

編集委員: 中住健二郎・橋本英樹・伴公太・野口英一朗

事務局: 〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコ-ト則武502 野口英一朗気付

中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>です。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008-2013 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.





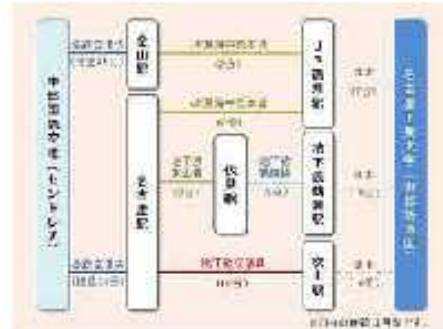
交通アクセス

名古屋工業大学への交通アクセス

名古屋駅からおよそ15分。緑豊かな緑地公園のそばに立地。  
名古屋工業大学は交通アクセスが良いだけでなく、豊かな自然に囲まれています。

JR東海	中央本線 鶴舞駅下車(名大病院口から東へ約400m)
地下鉄	鶴舞線 鶴舞駅下車(4番出口から東へ約500m)
	桜通線 吹上駅下車(5番出口から西へ約900m)
市バス	栄18名大病院下車(東へ約200m)
	昭和通線 名大病院下車(東へ約200m)

\*「栄18」「昭和通線」は市バスの系統名です。



所在地



キャンパスマップ



〒466-8555 名古屋市中区錦舞所町  
Copyright © 2009 Nagoya Institute of Technology. All rights reserved.